

出句用紙(番号 1)

作者名

桃一

マランンの豪氣ば熱氣街師走

冬 天 に 湯 気 を 豊 か に 湯 立 の 儀

冬麗の吐息すべらセハモニカ

仮り宮の一 夜 の 宴 冬 の 月

天 井 に 宛 風 の アーケード

出句用紙(番号2)

作者名 へ ちま

赤子ごとくるむコートの檸檬色

① 産土は愛しきされど冬に発つ

命の灯今消ゆ母よ冬の月

単線の駅名素朴山眠る

故郷を離る聖夜を終の夜と

出句用紙（番号3）

作者名 福田光弥

冬晴れやあそき草衣の遠ひさの山

冬月や虚空を見つむ樹脂の大

藁仕事たばこくわ煙らせ投げキツ

ペディキアやひとひら落つる寒椿

バスを待つ人のあいだに寒雀

出句用紙(番号4)

作者名 米田よし

時雨夜のタイヤ音まで遠ざかる

夜半なる結露や空の洗濯機

丁Kの足に敗走冬将軍

胃肝臓ストライキも冬の波

待ち人と仕事終わりの冬の月

QO

出句用紙（番号5）

作者名 上田秋霜

通り過ぐ。ビザ屋のバイク冬に入ろ

人溢るあまつさへ短日の京

名人は舟傾けて海鼠穴入

肩組みて高歌放吟冬の月

冬、紅葉鷦鷯越といふ難所

出句用紙(番号 6)

作者名 真一

移ろひし世にも、凜々しき冬の月

白山に靈魂眠る冬の月

あの頃の吾はいま何處、冬の月

冬一これの列島、華人の波絶ゆ

運命にまた生かされて、年の暮

出句用紙(番号2)

作者名 半蔵

仕事終へ秋を見送る一番歌

口めぐりを一度に破る十一月

木枯らしに舞ふ一度のちゆ時雨

裸糸の虎に睨ます冬の辛

行く道のそゝは古里夕の月

出句用紙(番号8)

作者名

閔洋子

眉を引くドラグクーン冬の月

進ほと
るコチュジヤン街中華の聖王夜

じフと見る當貢との記載無き通帳

背伸びして星は聖樹のてへんに

食べかけのケーキ 聖王夜の夜勤室

出句用紙 (番号 9.)

作者名..(安藤) 英彦

みしよう

実生より花芽数へて春を待つ

わせおくて

あやつ

早生晚生時を操り秋起こし

かんむり

さんさん

石棺の冠飾り秋燦燦

ちりもみじ

水に舞ひ風に踊るや散紅葉

兼題句

なんめい

かたりべ

南溟に眠る語部冬の月

出句用紙（番号 10）

作者名

砂布金爺
さふ さんじい

わざせん	きよしこ	桃 ^{もも} たまよう	天 ^{あま} あません
晩秋のメタセコイアや焰立つ	冬日照る神戸の沖は銀の盆	大雪や湯治の谷に湯気の塔	角生やす如き尻顛や久の月

出句用紙(番号11)

作者名

近藤和卓

海鳴りとなにぬなじめて冬の月

冬の月送り狼にはされず

胸の子とカートに二人小看かな

聖樹前泣く子拗ねる子手を振る子

クローラにコートを開演五分前

出句用紙（番号12）

作者名 山本わこ

金継ぎのコーヒーカップ冬の月

着ぶくれて妄想族の母娘

取り置きのショート小説風邪地

老ゆる母からのおねだり冬牡丹

団栗のしきりに落つる裏参道

出句用紙

白井桃紅

窓枠に縋りて騒ぐ北風よ

箱罥の四百キロの罠かな

。 北風に揺れるカーテン猫覗く

。 釣人の丸き背中や冬うらら

。 修行場の僧の瞑想冬の月

出句用紙(番号 14)

作者名 佐藤 町彦

◎888	8	8	888	◎
クリスマスイブ素うどんの葱心刻む 金湯のフルーツ牛乳聖夜待フ とれさうま青色金目アクリスマス 山谷まきものに守られ月凍る(兼) スカートの裾から流れニエ師走				

出句用紙(番号 15)

作者名 レヤボン

地は凍一え土星ニシに六十三個の月

月は天に凍一え日本國憲法

ヘラニタに夜干しの布巾ハフチ月凍一え

指ヒと指ヒ触タマツれて遠くに冬の月

月凍一え551 手にあおるまで

出句用紙(番号 16)

作者名

文蔵

一
汙ゆる月ユーロン河を下りきり

代
丁真
月の汙ゆ弥勒半跏の指の先

丁真
凍月の涙の小走り出國口

月凍る受話器震はし母逝キヌ

逝キヌ子の文机に鉢月汙ゆる

(17)

出句用紙

作者名 藤 ま 工 三

漂流の旅の傘寿や枯葉舞ふ

秋恋ひし日本は二季となりけり

時雨るゝや地蔵のほこり流すほど

年の瀬や子ういも塾の休みなく

残業終之急ぐ家路に冬の月

萬

出句用紙(番号 18)

作者名 二鬼

寒月や身代り猿の守る町

地
〇〇〇〇

冬さるや真夜の信弓のLED

駿
あかぎれ
は山の暮らしの聖女の手

年齢
とし
重ね肺まで届く冬の月

〇〇〇

〇〇

花がらの反りかえるほど石蕗日和

〇〇〇

出句用紙（番号 19）

作者名

南 柯

雪しまく山沈黙を守りたる

冬ざれの山頂包み込む陽光

○○
代

冬鷺タケヌキの首湾曲に佇めり

一と仕事終ふ職人の白い息

冬の月浜辺に染まる空工の蒼

R.7
12/19
南柯

南柯句会

1000 ft. - 1000 ft.
1000 ft. - 1000 ft.

1000 ft. - 1000 ft.

1000 ft. - 1000 ft.

1000 ft. - 1000 ft.

1000 ft. - 1000 ft.

1000 ft.

出句用紙(番号 20)

作者名 山崎たか

ハルヒタニシカジハ三段

洪ゆる夜路地裏酒場前七面

駄ヤアノミパンメヌレ一冬の月

満天の未満ニ六杯六冬の月

◎○

-[カヒロウ] ハリコトニタニタニ冬の月

南柯句会

82

21 出句用紙・作者名・宮本こぼ

れきしゃ

歴史屋は頂上極む山紅葉

まきがま

品

薪窯の煙の重さ熊眠る

しゃもなべ

近江屋の竜馬軍鶏鍋レノンの忌

②

暗号はトラトラトラの開戦日

冬の月詠み分からずの句碑てらす

出句用紙・作者名・富野香衣

22

② ② 飴 色 の 灯 り 点 滅 一 葉 忌

瀬 戸 内 の 光 丸 ご と 蜜 柑 食 ぶ

缶 跡 り の 缶 は 置 い て け ぼ り に 冬

○ ス リ パ ー に 広 瀬 香 美 の 冬 が 来 る

○ 寒 月 や 落 款 印 の 著 き 軸

23

出句用紙・作者名・鮫島しょうん

駆け戻る子は草の実に愛されて
熊鈴のやたら騒がし山装う

輪はかたし混ざる白息弾けけり

月汎ゆる人こそ恋し無人バス

冬うらら弾むボールの拍子抜け

出句用紙・作者名・横田清史

(三〇) ズワイ蟹メスは吊り目で卵持つ

瀬戸内の牡蠣の不漁に謎深む

○赤だしの冬菜味噌汁愛でにけり

(三〇) 一個ずつ風味異なる蜜柑かな

真空の中澄んでる冬の月

24